

2022.12.15 (木)  
第22回例会  
(通算3691回)

## 2022-2023 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『創り出そう身近な奉仕を 友情、愛情 そして熱意で』

第85代会長 滝越 康雄  
副会長 清水 輝彦  
幹事 中島 政徳  
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00  
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル  
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F  
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2022-2023 年度  
国際ロータリーテーマ



2022-2023 年度  
R1会長 ジェニファー・ジョーンズ  
第2500地区ガバナー  
久木 佐知子 (旭川西 RC)

月間テーマ	疾病予防と治療月間
本日のプログラム	講師例会「北海道教育大学の現状と課題」(担当：理事会)
次週例会	会員卓話「サウナで整うココロとカラダ」(担当：プログラム委員会)

- ロータリーソング：我等の生業      ■ ソングリーダー：織田 亨君
- 会員数 104 名
- ビジター なし
- ゲスト 国立大学法人北海道教育大学釧路校・法律学研究室教授 浅利 祐一様  
北海道教育大学・事務局釧路校室副事務長 島田 勉様

### 会長の時間

滝越 康雄会長



先週、12月8日のクリスマス家族会に大勢の方々、ご家族、会員ご本人のご出席ありがとうございました。

佐藤クラブ運営大委員長以下、もしくは親睦活動委員会の横田委員長以下の皆さんで一生懸命に企画を練っていただきましたことで、本当に自画自賛になりますがいいクリスマス会だったと思って安心しました。

私からロータリーの活動の報告です。12月4日に厚岸ロータリー60周年記念式典があり、私と幹事の2人で行ってまいりました。スピーチもないということで安心して気楽な気分で参加しましたが、受付で「挨拶あります」とその場で分かりましたので、全くの無防備状態から20分ぐらいで原稿を作って、厚岸の話をしたのです。スピーチの中では、たまたま厚岸が牡蠣などのいろんな材料があって厚岸を盛り上げてきました。その中で『国泰寺』の話もしました。国泰寺といえば、松前藩陣屋や遡って徳川幕府の話になります。

この厚岸で話した幕府の話は、私が以前に総会などで10分間の原稿を用意した徳川幕府のできなかつた話にたまたま結びついたので、せっかくの作った原稿な

ので、今日使いたいと思っております。

日本史に残っている徳川幕府の話では、5代将軍・徳川綱吉と11代将軍・家斉の話です。綱吉は『御成り』ということと、家成の子供さんをネタにしたいと思います。

『御成り』というのは高貴な方が、もしくは権力のある方、話題の方、時の人、このクラブにもいると思うのですが、その方がお越しになる時に「殿の御成りです」と言う時代劇でよく出てくるあの言葉です。

第5代将軍綱吉の歴史を見ますと、在位は1680年から1709年まで。要は、昭和元禄ではなくて、本当の元禄時代です。その『御成り』というのは、諸大名の所に行くのですが、献上品もしくは賜る物をやり取り取ったりするわけですが、それは膨大なもので、柳沢吉保邸58回、牧野邸2回。来られる方は金がかかるので迷惑なのです。元禄14年1701年、綱吉から加賀藩前田家に「来年、行くよ」という御成りの意向がありました。将軍家から小普請奉行への直接の命令なので、前田家の勝手にはいかないわけなのです。

それでどんなお金の使い方をしたかです。柱一本900万円、長押が1本600万円、このほかの費用は際限なし、と前田家の記録には載っています。上棟式は、本当かどうか分かりません。餅が大樽580本、延べ20万人の大工で棟の数が48棟、建坪3000坪の豪邸を建てて、1702年4月26日10時に御成りで綱吉が来て、5時に帰られた、と。その間の夕食で

5580人分、前日・前々日、当日の全部で9180人分の料理。総費用36万両、今年物価が上がる前で1080億の金が数時間で飛んだ、と。

もうひとつの話、第11代将軍家成は1787年から1837年で、結構長いのです。幕府の政治は松平定信に任せきりということです。16人の側室、男の子27人、女の子27人の計54人のお子さんをつくった、と。その中で12人が成人した。この人は結構、産み分けが上手い将軍ですね。そして、全盛期には1500人の女性がいたという生活が歴史で有名であります。どうして54人もいて、27人もあったかという、メリットもあるわけです。大名家が江戸時代に270家あって、27人を養子でお嫁さんに出した。大きな藩を血縁関係にすると1割が親せきで、全部家成の養子を押し付けた、と。姫路藩が家成のお子さんをお嫁さんに迎えて、財政が悪化して傾いたくらいです。第11代将軍家成の21番目の娘は溶姫、溶液の溶と書いて「やすひめ」と言うのですが、第13代加賀藩主の前田家に輿入れした際に、屋敷に門を作ったのです。江戸時代に屋敷の門を朱塗にするのは将軍家のお姫様と縁組した大名の縁を表すものです。現在の東大の敷地は加賀藩前田家のものだった。江戸藩邸、加賀藩御守殿門は現在の東大赤門として存在し、前田家が作ったものです。東京大学・本郷キャンパスの赤門は加賀藩邸の御守殿門です。

ということで、これ話のポイントになりますので記憶にとどめて、何かの時に役に立つと思います。どうしてあそこに赤門があるかという、こういう家斉の時代からの因縁があつてのことです。

以上で会長挨拶を終わります。

## 幹事報告 中島 徳政幹事

幹事報告をさせていただきます。ただ今、会長からお話ありましたが12月4日に、わがクラブの子クラブであります厚岸ロータリークラブが60周年ということで記念祝賀会に参加してまいりました。向こうからのご案内は、60名程度でということで会長・幹事名でご招待受けましたので2人で行ってまいりました。中では厚岸ウイスキーの堅展(けんてん)実業の社長様がお見えになって公開のスピーチをされて、堅展実業さんの今の状況、ウイスキーの状況などをお話していただきました。

あと12月14日は、親クラブであります札幌ロータリークラブが90周年を迎え、記念式典がありました。札幌ロータリークラブ様の方から「会長のコメントを」ということでしたので、会長のコメントを送りました。厚岸ロータリークラブ、札幌ロータリークラブともに、釧路クラブからお祝い金を出させていただいておりますので報告いたします。

今週の各クラブの例会についてはテーブルの例会案内

をご覧ください。

少し前になります。会員増強選考職業分類委員会から「入会対象者のご紹介のお願い」というメールを出させていただいております。皆さまが普段、会社や生活されている中で、ロータリークラブの話をして、興味がありそうだな、脈の強い弱いとかは関係なく、この人がいいのでは、少し話してみたらいい感じだよ、興味ありそうだよ、という方がおりましたら事務局にお名前、会社名等をお知らせいただければと思います。その後の対応につきましては、ご紹介いただいた方と委員会の方、また理事会の方で進めてまいりたいと思います。ぜひ、入会対象の方がいらっしゃいましたら、ご紹介をお願いします。

2500地区のインターアクト委員会から「R I 2500地区の短期海外研修及びインターアクト地区大会の開催は本年度、中止にします」と、3年連続の中止でご案内が参りました。武修館高校さんにはその旨の連絡をさせていただいております。

また、2500地区の久木ガバナーより、「ガバナーノミニージェグネート2025-2026年度のガバナーの公表」がありまして、釧路北ロータリークラブの佐渡正幸君が公表されております。あとでホワイトボードの方に公表の文書を貼っておきますのでご興味ある方はご覧ください。

今月のロータリーレートは138円となっております。その138円で本日、下期の会費のご請求をさせていただきました。先日の年次総会で金額を下げさせていただいた形で、11万6000円ながしのご請求をさせていただきます。ぜひご納入をよろしく願います。

最後になります。2日ほど前に新年交礼会、1月12日のご案内を差し上げております。この出席・欠席のお返事をいただきたいのと、この例会に限り例会費が1万円かかりますので当日の回収となります。土壇場でキャンセルされますと会費の請求が起きますので出席・欠席のご返事をいただければと思います。よろしく願います。

## ■本日のプログラム■ 講師例会「北海道教育大学の現状と課題」

### クラブ運営委員会 佐藤 貴之委員長

佐藤でございます。本日のプログラムは「北海道教育大学の現状と課題」ということで、釧路校キャンパス長・浅利祐一様、それから副事務長・島田勤様、よろしく願います。



## 北海道教育大学釧路校法律学研究室教授

釧路校キャンパス長 浅利 祐一様

## 北海道教育大学事務局釧路校室

副事務長 島田 勤様

皆さまこんにちは。北海道教育大学釧路校のキャンパス長の浅利でございます。本日は歴史と伝統のあるこの釧路ロータリークラブに



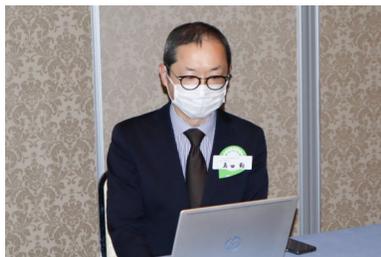
おきまして、本学の取組みについて話をさせていただく機会を得ましたことを大変光栄に存じております。本当にありがとうございました。

本日は今ご紹介ありましたように「北海道教育大学の現状と課題」というテーマとさせていただきました。いろいろとやっているうちに「地域と共に歩む大学を目指す」というタイトルをつけさせていただきました。われわれの教員養成への思いも込めまして、こういう形でお話をさせていただきたいと思っております。

限られた時間の中で話すことは4点、第1に釧路校の現状と概観、第2に非常に大きなポイントとして現在の大学がおかれている状況、いわゆる「独法化について」、2004年に大学が国立大学法人になったことで、大学が大きく変わらざるを得なかったことについてお話させていただきたいと思っております。第3に、独法化に伴って、北海道教育大学の5キャンパスが再編されて、機能分化して現在に至った経緯、そして最後に、釧路校は現在どのように教員養成に取り組んでいるかを4番目にお話させていただきたいと思っております。

こういう場でのお話は慣れていません。いろいろとご迷惑をかけるかと思っております。よろしく願いいたします。

早速ですが、北海道教育大学釧路校は平成31年に課程の再編をして、地域学校教育実践専攻という1専攻



で、1学年180人という大学としては大変小さな規模の大学です。

職員として特任も含めて60名ほど。事務職員が31名ほどの

大学です。この規模をどう考えるか、釧路にある公立大学さんの学生はこの倍近くいるし、教員は半分くらいで30人くらいだと思います。これは教員養成大学の特性です。教員養成大学は教員免許を要件として卒業させるので、免許法上、いろんなメニューを用意しなければなりません。

私の専門は法律学、憲法でして、大学の仕組みの中では社会科教員養成に所属しています。社会科教員養成

は「社会」の免許を取ろうとする学生さんが卒業するには社会の専門科目を20単位取らなければいけないのですが、その中で、法律でも政治学概論、法律学概論、それから経済学概論、社会学概論、倫理学概論、哲学概論と、これだけの科目を履修しなさいと設定されています。それは国語や数学もみんな同じなので、どうしても教員の数が増える形になります。ですから、かつては釧路校でも75から80人近くの教員がいた時代がありました。札幌校でも旭川校においても100人以上の教員がいた時代もあります。

学生1人当たりの教員の率では、全国的にもかなり高い率になると思います。180人に対する教員ですので、極めてアットホームな雰囲気だと言うことができると思っています。

それから特色ですが、道外の出身者を含めて全国各地から学生が集まっていて、今は90%くらいの学生が自宅以外の寮やアパートで暮らしている状況です。そういうことから学生が、特に今日お集まりの皆さんの所でアルバイト・お手伝いをさせていただいていると思っております。

一昨年、コロナが流行った時に、学生がアルバイトできなくなり、大変生活に困窮しているという新聞報道がありました。その中で、いろいろな形で学生を支援していただく地域の方々が現れました。学生によってはアルバイトができずに困窮していて、7キロくらい痩せた学生もありました。先ほど言いましたように自宅以外にいますのでどうしてもアルバイトは必須、その中で市民の方々に大変多くのご支援をいただきました。このロータリークラブの中にもご支援をいただいた方がいっぱいいらっしゃいます。この場を借りて改めてお礼申し上げたいと思っております。その時は本当にありがとうございました。

ひとつだけエピソードをご紹介させていただきます。普通の主婦の方ですが突然、スーツケース4つに生理用品などをいっぱい入れて、大学に持って来ていただきました。「学生が困っているという報道を見ました。特に女の子は生理用品などで困っていると聞いたので、持って来ました。私は釧路に生まれて釧路で育ったので、釧路が大好きなのです。その学生さんたちが入学してから今まで、良いこともなくて、釧路の嫌な思い出だけ持って卒業していくのはすごく嫌です。だから学生さんに何かをしたいのですが何をしたいのか分からないのです。こんなことしかできなくて済みません」と言われた時に涙が出そうになりました。そういう市民の方々に支えられて、うちの学生はがんばっていることをご理解いただければと思います。そうやって、いろいろな地域の方々にいろんな意味でお世話になっております。

北海道教育大学には5つのキャンパスがありますが、教員養成機能を持っているのは札幌・旭川・釧路です。

これは北海道と札幌市の教員採用試験の合格率ですが、今年と昨年の分だけを出しました。3キャンパスでは、釧路校はいつも一番成績が優秀です。現役学生の合格率70%という数字は釧路校の教員養成の成果を示すものであり、この高い合格率が大きな特徴になってきます。

次に北海道教育大学の現状についてです。冒頭にお話しましたように独法化と5キャンパス再編の2点に絞ってお話させていただきたいと思います。

北海道教育大学には教員養成課程のある釧路校・札幌校・旭川校の他に、函館校と岩見沢校合わせて5キャンパスあります。北海道教育大学の誕生は1949年の新制大学が発足した時に始まります。釧路校もそこに始まります。他の4キャンパスは、戦前は師範学校だったところですが、釧路には師範学校がなかったので新制大学発足と同時に釧路校が誕生しております。したがって、北海道教育大学の歴史と釧路校の歴史は同じです。3年前に70周年を迎えました。ところが、札幌校は札幌師範の歴史がありますので札幌校の歴史はもう130年を超えています。キャンパスの歴史の方が大学本体の歴史より長いという極めて珍しい大学であります。

よく「釧路分校」と昔は言われていましたので勘違いされるのですが、北海道教育大学には本校というのはないのです。当初は5つとも分校と言っていて、5分校ということで5分校の均等ある発展を目指すところで、カリキュラム的というと「金太郎あめ」で、どのキャンパスでも同じような小学校教員養成、中学校教員養成、幼稚園教員養成課程を持っていて運営していたのです。当初は、戦後の教育改革の中で「学問で教員養成する」という改革の中で学芸大学、広く浅くというリベラルアートの発想の中で作っていました。

北海道教育大学のひとつのターニングポイントは昭和63年です。教育学部にいわゆるゼロ免課程が設置されました。ゼロ免課程は何かというと、要するに教員免許を出さない課程で、いわゆる普通の学部と同じ形になります。例えば、法学部でも「社会」の免許は取れます。卒業の要件の外に免許科目があって、プラスアルファして免許を取る。そういう課程が少子化と教員のダブ付き、戦後まもなくは教員不足で、教員養成大学を作り、それがだぶついてきた、ということがありますが、その中でゼロ免課程が設置されます。これは全国的にどの教員養成大学でも設置されました。それが徐々に拡大していった経緯と並行して、2004年（平成16年）に国立大学法人化、いわゆる「独法化」がなされます。ゼロ免課程の拡大とともに独法化に伴っていわゆるキャンパス再編が行われてまいりました。

2004年の独法化に伴い、「国立大学法人北海道教育

大学」が設置されて、それによってなされるのは大学経営です。その背景としては、2001年に中央省庁の再編がありました。その前までの文部省と科学技術庁が文科省となる再編統合がありました。要するに公務員の大幅カットがひとつの目標でしたので、われわれはその前までは文部教官だったのを法人化によって現在、私たちは団体職員になっています。大きな特徴は大学を経営することを求められました。学長は単なる教学上の指導者ではなくて、経営者という位置づけになってきたのが特徴です。

そのために権限を大幅に強化しなければならないわけで、基本的な財源は運営費交付金を国からいただくのです。ただ、これは毎年カットされて、要するに自分たちで何かプロジェクトを起こしてお金を取ってくる仕組みが導入されています。その具体的な展開としては、6年単位で中期計画・中期目標を自分たちで設定してやっていく。今年度から第4期に入っています。その間において、教育研究の質の向上や業務運営の改善効率化、財務自己点検等を運営の仕方について自己評価して、点検して、これで予算が確定していくことになります。

数値目標を設定されることがあります。

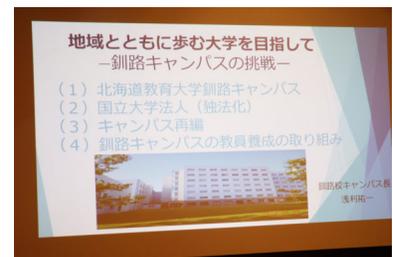
その中で、第3期の終わりに明確にされたのはミッションの再定義。北海道教育

大学は教員養成をします、というのを文科省との間できちり取り交わします。それから経営の戦略を立てなさい。要するに自己資金、自己運営資金を増加して、ぜい弱でない財政基盤を作りなさいと言われていました。

第4期に当たりますのは、本来自己目標を立てるのですが、目標を自分で立てられず、文科省の作った中からプルダウンで選ぶような形になって、目標を立てて自分たちでやっていくことになります。経営戦略を立てなければいけないですが、理工系の先進的な研究をしているところはお金をいっぱい取れるのです。企業とタイアップしながら先導的な契約ができるのですが、教育はお金を稼ぐのが難しく、どうやったらいいか、正直、いろいろ困っているところで、経営をやっている方々からアドバイスをいただければありがたいなと思って本日やってまいりました。よろしくお願ひしたいと思います。

小樽商大は上川の酒蔵と連携したり、北大もクッキーとかいろんな事、帯広畜産大もお酒やチーズを作ったり、いろいろと企業と連携しながら自己資金増をやっています。

ただ、教員養成系の大学はお金を単独で稼ぐのは非常に難しいのです。軒並み教員養成の大学は72の国立



大学の中で下位に毎年ランク付けされ、50位以下に教育大学が並んでいます。こうしてますます経営が厳しくなっている現状がございます。

そういうことを背景にしながら例えば、自己資金の充実に、キッチンカーと取り組んでいたりと、札幌キャンパスにおいては建物にコンビニなど民間の方に入ってもらえることも検討しています。うちも余っている土地などを活用したいと思えます。われわれは素人によく分からないので経営のプロである民間の方々にお知恵とアイデアをいただけたらありがたい限りでございます。

もうひとつ、キャンパスの再編です。先ほどは基本の養成課程は3キャンパスということでしたけれど、2006年の独法化を受けてゼロ免課程が増えてきた現状の中で、機能分化をする。それまでは「5分校の均衡ある発展」が理念でしたが、それぞれ特色を出しましょうとなりました。2006年からは札幌校に関しては教員養成では小と中。旭川校は中学校の教員養成、釧路校は小学校の教員養成です。函館校には国際地域学科を設定し、岩見沢校にはスポーツ芸術文化という学科で、教員養成は3キャンパスから、かつてのゼロ免課程を発展させた学科という形で2キャンパス、とこのように形で分化をしております。

この再編の時に釧路校については存続も危ぶまれましたが、古くからいらっしゃる方はご承知のとおり10万人の市民の署名をいただきまして、こういう形で小学校がメインの釧路校存続が決まった次第です。地域の方々の熱い思いに応えようと我々も必死になって教員養成の改革を繰り返して来たところでございます。2005年のことで時間もだいぶ過ぎましたが、われわれが目指すのは「道東地域に根差した、その特性に合った教員養成を考えている」ところで、道東地域はご承知のように根室などがそうですが、へき地小規模校が大変多い中で、学校の先生の定着率が非常に低いのです。30代で教務主任をやらなければならないので、いろいろなことができて、学校経営の視点を持っ

た教員を育てないといけない、という観点から改革を進めているところです。

特色の1点だけお話させていただきます。一番重点を置いているのは実践力で、学校現場での経験を多く積ませたいと考えています。1年生の時から新入生研修が始まって、最大で1,000時間を超えるのは実習、学校現場の経験を経る中で実践力を付けていくことを目指しているのです。これはバスで毎週金曜日、市内の小中学校に学生を派遣しておりまして、そこでいろんな経験を積んでいただく形でやっています。そういう形で徐々にステップアップしていき、実践力を付けた教員を育てようとしています。

学生は本当にがんばっています。先日、へき地校体験実習の報告会がありました。この実習では2週間ほどへき地の小中学校で研修するのですが、そこで使われなくなった教員住宅を借りて住み込んで研修していません。報告会でも初めて「汲み取り式トイレ」「スノコのあるお風呂」を経験するなど「キャー、キャー」言いながらの報告。その中で一生懸命頑張って複式授業などにチャレンジしている姿を見たら、何とか応援してやりたい、いい教員にしてやりたいな、と強く思うところです。

ともかく地域の教育に役立つような教員養成を心掛けているところですのでご理解いただければと思います。われわれも真剣になって地域の皆さまと一緒にこういう教員養成が必要なのかをご相談しながら進めたいと思えます。

本日はこういう機会いただきまして本当にありがとうございました。これをきっかけにいろいろな意見交流させていただければと思っております。

本日は本当にご清聴ありがとうございました。

## 本日のニコニコ献金

- 滝越 康男君 景品当たりました。
- 工藤 彦夫君 景品当たりました。ありがとうございます。
- 横田 英喜君 景品当たりました。ありがとうございます。

今年度累計 284,000円